

仙台市文化財パンフレット第38集

縄文人のハート

あおのだいせいぎ  
大野田遺跡



■発行：〒980-91 仙台市青葉区国分町三丁目7-1 ☎214-8893・94

仙台市教育委員会文化財課

■発行日：平成8年3月

■印刷：針生印刷株式会社

仙台市教育委員会

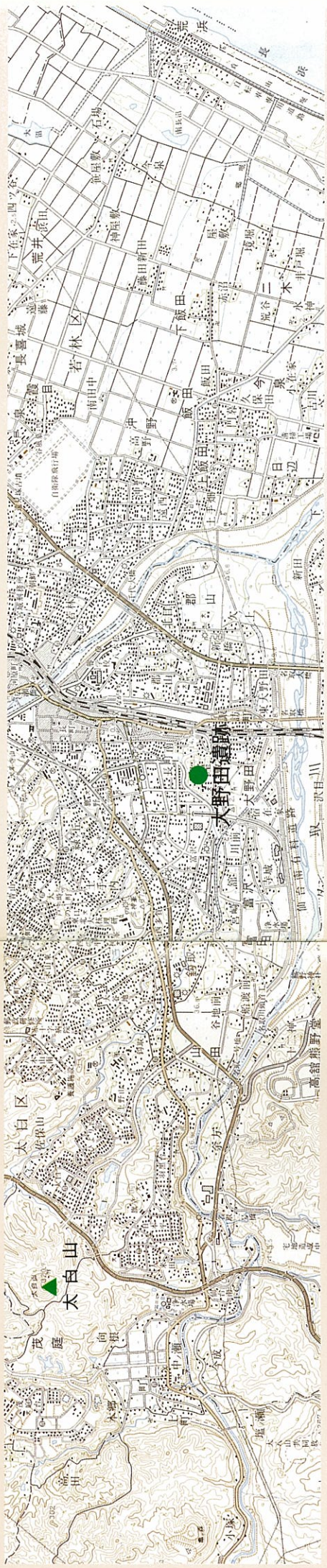
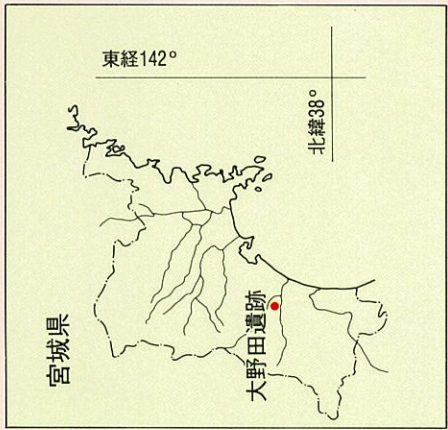
表紙写真提供：仙台市史編さん室

おのの、だいの、せき  
大野田遺跡は古くから知られていた遺跡ですが、発掘調査は都市計画道路をつくるために行われました。開業予定日に間に合うように、記録的な猛暑や土も凍てつくような寒さと闘いながらの休むことのない調査でした。平成5年4月からの2年半で、約8,000㎡を調査し、遺物の出土量は、仙台市内でのこれまでの調査で最大量となりました。

大野田遺跡は仙台市南部の太白区大野田にあります。この地域は、広瀬川と名取川にはさまれた平野の中でも、やや小高い場所になっています。遺跡の南には名取川が流れ、北西遠くにはトンガリ山の太白山を望むことができます。大野田周辺には縄文時代の遺跡が多く、国内で最大級の土偶が出土した伊舌田遺跡などがあります。

この遺跡は、約3,800年前の縄文時代後期の遺跡です。平野にある遺跡ですが、水田の土を取り除くと、すぐに縄文土器が顔を出します。縄文人の生活していた地面は2面ありました。上の地面では、直径12mの円形の範囲に石が並べられたストーンサークルや石を組んだ配石遺構、下の地面では、たくさん柱の穴や、石を組んだ墓、土器を埋めた墓などを発見しました。多量の土器や石器などは、下の地面の上に厚く堆積したゴミ捨て場や盛り土の中から出土しました。中でも、土偶の出土が多く、300近い破片を発見しました。これは、県内の発掘調査による点数では最多のもので、

土偶  
人の形？それとも神様？  
大野田の地で自然ととも  
に生きていた縄文人。  
土偶にどんな思いを  
こめ、どんな願いを  
託したのでしょうか。



# ストーンサークルの謎

## 大野田遺跡の環状集石と配石遺構



▲人の立っている内側に石が並べられ、その周辺に方形などの配石遺構がある。  
青森県青森市小牧野遺跡（国指定史跡）

大規模なストーンサークルが発見されたのは、県内では大野田遺跡がはじめてです。東日本では縄文時代前期から晩期にかけてつくられます。つくられた目的についてはいろいろな説がありますが、最近の各地での調査から、「まつりの場であり、墓地でもある」という考え方が有力になっていきます。

秋田県鹿角市大湯環状列石（国指定史跡）

▲直径約35mのストーンサークル。約3,800年前。

岩手県陸前高田市門前良塚

▲海を向く弓矢形の配石遺構。約4,000年前。

写真提供：青森市教育委員会、鹿角市教育委員会  
陸前高田市立博物館

上の地面のストーンサークルは環状列石ではなく、環状集石です。直径約6mの円形の範囲内に大小の河原石が並べられています。さらに、ストーンサークル内や外側には、河原石を組んだ配石遺構があります。これらは、ストーンサークルの中心から半径約15m以内につくられています。配石遺構には、方形や円形のもの、集石状のものなどがあります。石は名取川などから運んできたものでしょう。重さ50kgほどのものもあり、どのようにして運んできたのでしょうか。

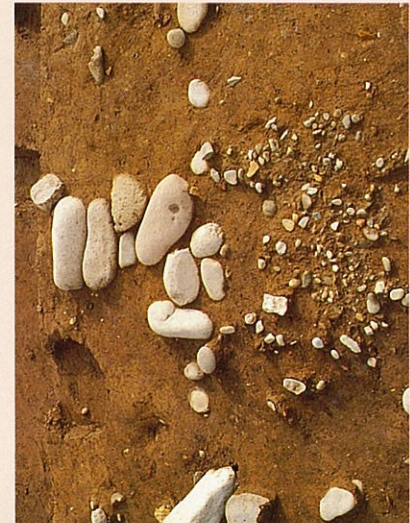
ストーンサークルや配石遺構は盛り土の上にあります。つまり、人工的な丘の上につくられているのです。丘をつくり、石を運ぶ仕事は、多くの縄文人の共同作業によるものでしょう。「まつりの場をつくろうとする縄文人の熱い思いが伝わってきます。どのような「まつり」をしたのかは、よくわかりませんが、焼けた石や焼けた土、焼けた獣の骨があることから、火をつかった「まつり」かもしれない。



▲一辺約3mの方形の配石。



▲長さ約1mの楕円形の配石。



▲大小の石を集めた配石。祭壇だろうか。

▼上の配石を横から。高さ約50cmの立石。石の上は焼けている。



▲4個の立石の間に小石を敷いた配石。



▲直径約50cmの円形の配石。



▲万座・野中堂の2つのストーンサークルからなる。手前の万座の直径約50m。約3,800年前。

## お墓と謎の柱穴

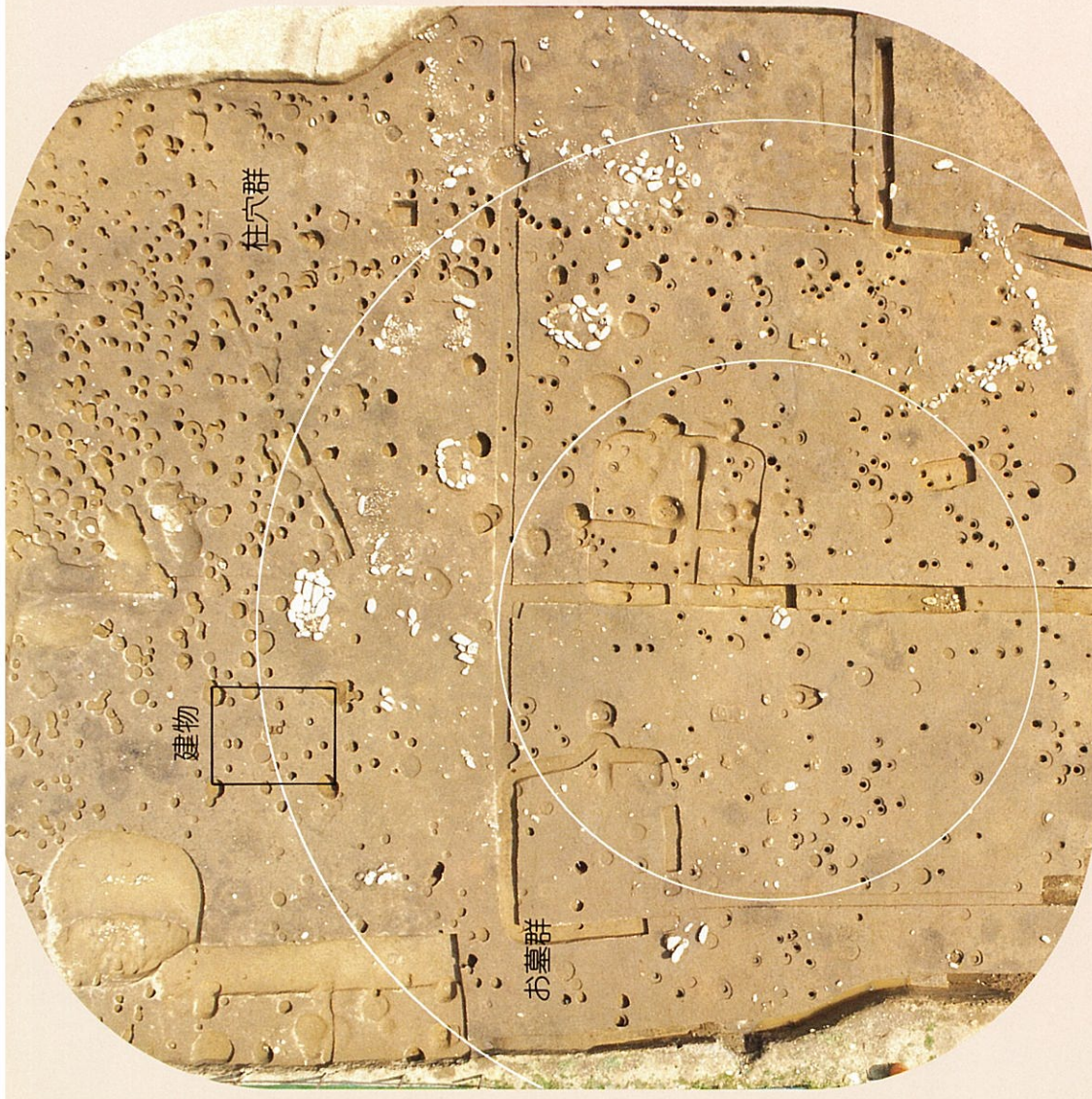
下の地面からは、たくさん柱の穴や、石を組んだお墓、土器を埋めたお墓などがみつかりました。縄文人の「共同墓地」だったようです。

柱の穴は直径20cm～80cm、深さ30cm～100cmの大・小のものが、約2,000個以上あります。大きさや深さと配置から、四角い建物ではないかと思われるものが1棟ありますが、その他の多くの柱の穴はどのような建物になるのかわかりません。トーテムポール（かんじょうはしらなつ）のようなものや、ウッドサークル（環状柱列）のようなものになるのかもしれませんが、たくさんあることから、何度も作り替えられたものでしょう。お墓の近くにあるので、お墓に係した施設や記念物かもしれません。

謎  
たぶん  
なんつ

▲岩手県紫波町西田遺跡 原図『岩手の遺跡』1985より  
環状に計画された縄文のムラ。中央には、まつりを行なう広場と墓地がある。その外側を取り囲むように、とむらいに関係すると考えられている建物群、日常的な住まいである竪穴住居が同心円状に配置されている。

大野田遺跡では竪穴住居はみつかっていません。西田遺跡とは違った配置になるのかもしれませんが、周辺に住む縄文人たちの共同の「まつりの場」や「墓地」だったのでしょうか。



▲中央に直径約15mの広場、その周りの幅約8m内にお墓群、その外側にたくさん柱の穴がある。下の地面の環の中心は、上の地面のストーンサークルの環の中心とはずれているが、環の大きさはほぼ同じ。



▲川を向く矢印のような配石。門前良塚の弓矢形の配石遺構に似ている。

特徴的な、石を組んだお墓は、幅約8mの帯状に分布しています。この周辺には、土器を埋めたお墓なども集中しています。お墓のある場所やその北側には、たくさん柱の穴があります。大湯環状列石や西田遺跡などの調査では、お墓の外側に環状に柱の穴がたくさん発見されており、大野田遺跡も同じような配置になる可能性があります。

## いろいろなお墓

発見されたお墓には、石を組んだお墓、石を組まないお墓、土器を埋めて棺にしたお墓があります。石を組んだお墓には、①石を楕円形に組んだもの、②楕円形に組んだ石の内側に小石を敷いたもの、③楕円形に組んだ石の内側に大きい石をつめたものがあります。石を組まないお墓には、石の墓標をもつものがあります。

お墓に使われた河原石で、大きいものは約30kgもの重さがあります。石のお墓をつくるのはたいへんな仕事だったでしょう。また、お墓の石には白っぽい石が多く、使う石を選んで運んできているようです。



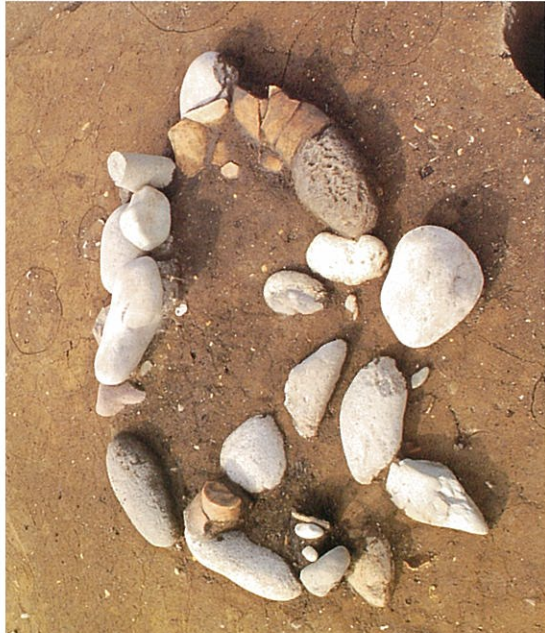
▲石を楕円形に組み、内側に大きい石をつめたお墓。長さ約1.8m。



▼ベンガラのついた磨石。ベンガラをすりつぶすのに使ったものか。

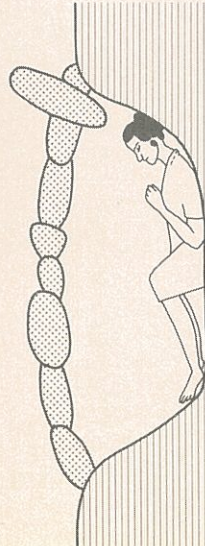


▲左の墓穴の底近くから見つかった土製の首飾り。周りの赤いものは遺体にふりかけたベンガラ（酸化鉄）。



▲石を楕円形に組んだお墓。長さ約1.8m。

▼上の写真の石の下に、深さ約40cmの遺体を葬る穴がある。



▼長さ約30cmの石の墓標が立っている。



▲石を組まないお墓。長さ約1.4m。深さ約40cmの墓穴。



▲ほぼ同じ簡隔で、石を組んだお墓が並んでいる。



▲石を楕円形に組んだお墓。長さ約1.3m。このお墓からもベンガラが見つかっている。



▲石を楕円形に組み、内側に小石を敷いたお墓。長さ約1.5m。

土器を棺にしたお墓は、幼い子どもや胎児を葬ったものと考えられています。縄文時代は、現在とは比べものにならないほど子どもの死亡率が高かったと思われま。寿命の短かった子どもも土器のゆりかごに入れて大切に葬られています。



▲直径25cm、深さ35cmの土器を利用したお墓。土器の底ははずされている。

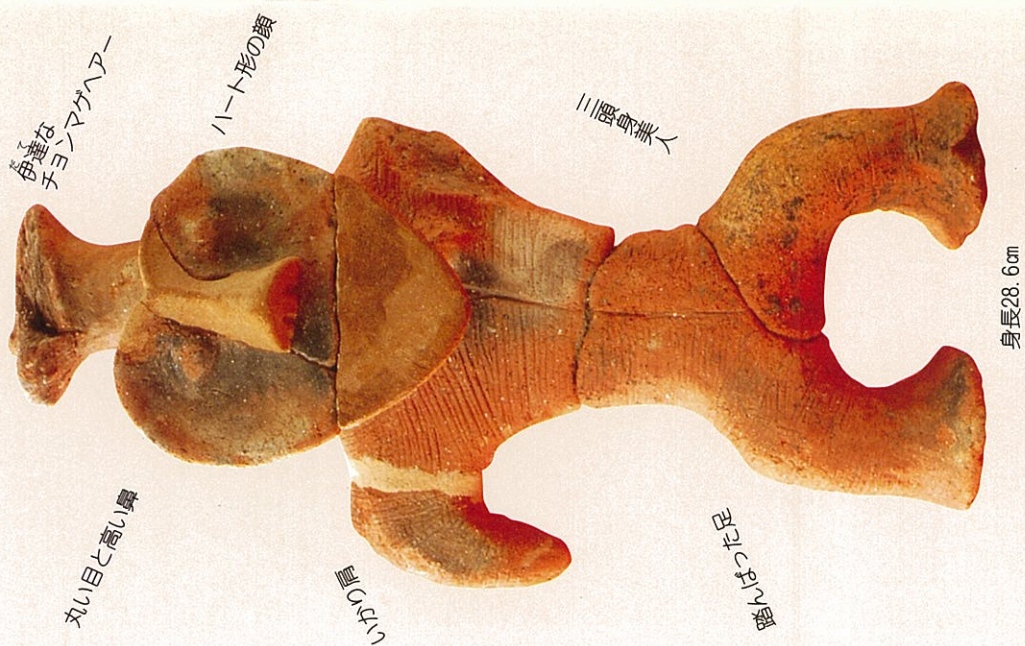


▲土器の棺の上には石を置くことがある。土器の中に小石が入っていることもある。

# 土偶解剖図鑑



▲十土偶十色。いろいろな顔・カオ・カオ。  
 へんがらのついた顔  
 おちよほ口  
 首にアスファルト  
 キョ目  
 アスファルトのついた顔



丸い目と高い鼻  
 色んなチヨマダヘア  
 ハート形の顔  
 三層階級人  
 長い髪  
 脚はむちた足  
 身長28.6cm

写真提供：山台市史編さん室

ゴミ捨て場や盛り土の中からは、300近い土偶の破片が出ました。完全な形の土偶はありません。土の中のあちこちから、体の各部分がバラバラの状態で見られました。首などに接着剤のアスファルトのついたものもあり、壊れたものを直していったこともわかります。大野田遺跡のように、土偶がたくさん出土する遺跡は、そんなに多くはありません。周辺に住む縄文人の土偶の捨て場だったのかもれません。この場所は、縄文人の墓地でもあり、土偶の墓場でもあったのでしょうか。土偶を送る「まつり」もあつたのかもれません。



なぜか？7本指  
 ▲「シコぶんじゃった」ようなあし。



▲キョットしまったウエスト。縄文のビーナス。  
 SLIM&BEAUTY



▲いかり肩。



▲イノシシの土偶。  
 イノシシは縄文人のメイトイノシシ。

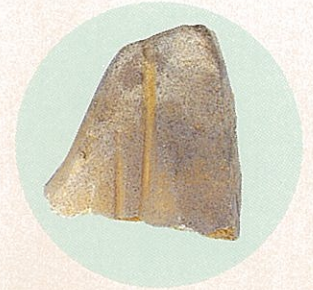
▲縞模様があり、毛が逆立っている。幼獣だろうか。縄文人はイノシシを飼育していたとする説もある。

## 石の靈力

縄文人は石にも願いを託しました。色や質、そして形にも霊力を感じ、思いをこめて、「いのり」や「まつり」の道具として使ったのでしょうか。



▲ヒスイの玉のペンダント。左のヒスイの長さ5cm。ヒスイは新潟県糸魚川地域のもの。まじない師や村のリーダーのものか。



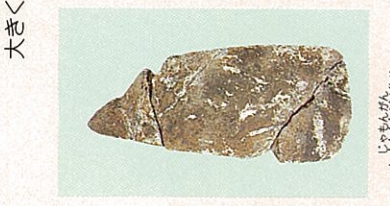
▲玉をみがいた石。



▲サメの歯の化石。左の歯の長さ10cm。化石は青葉山の滝ノ口でとれる。大きくてどうもうなサメへの思い。



▲石髹。男性のシンボルか。



▲蛇紋岩製の石のオノ。



▲石の髹と石の舟



▲木の化石でつくられた石の刀。青銅器に似ている。

男性的な石髹・石刀は権力の象徴であり、魔力をもつものだったのだろうか。女性的な土偶とともに、「まつり」で使われた。

# 縄文人の道具



▲ゴミの山は宝の山。

▼土器の大きさ・形・模様には、それぞれの器の役割と縄文人のここがこめられている。

ゴミ捨て場や盛り土の中からは、縄文人の使った土器や石器、骨角器などがたくさんみつかりました。段ボール箱にして1,500箱以上、仙台市内では最大の遺物量です。

出土した土器などの道具は、壊れたものだけではありません。まだ使える土器や石器も捨てられています。縄文人は物を大切にしながらいたのでしょうか。いやそうではなく、使っていたものに感謝の気持ちをおこめて、物を送る「まつり」をしたためかもしれません。



▼鳥の頭のついた土器の口。ワシガタカだろうか。

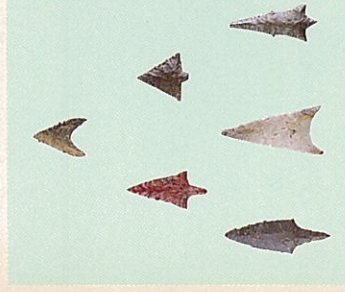


▲荒々しく、雄々しく大空を舞う大鳥。それは、あこがれ・力・魂を運ぶ鳥。

写真提供：仙台市史編さん室

小さい土器やかわった形の土器がたくさん出土しました。これらの土器は「まつり」の時の酒盛りや儀式用に使われた土器ではないでしょうか。ストーンサークル、そして赤々と燃える炎、まわりを囲んで、飲み、食い、歌い、踊り、いのる。大野田の縄文人。

▼石のやり。

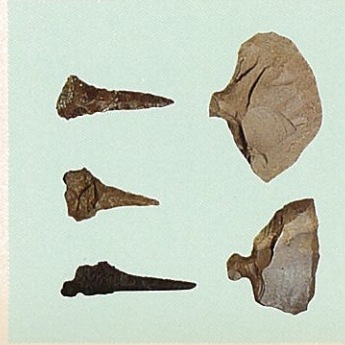


▲石のヤジリ。いろいろな形がある。獲物のちがいで、使いわけたのだろうか。

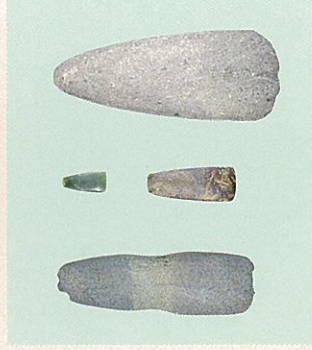
シカも大好き  
縄文人!



見つけた骨には、シカ・イノシシ・ガン・カモ・ウなどがある。



▲石のキリとナイフ。右端のナイフのつまみにアスファルトがついている。



▲石のオノ。左側は両刃のもの。

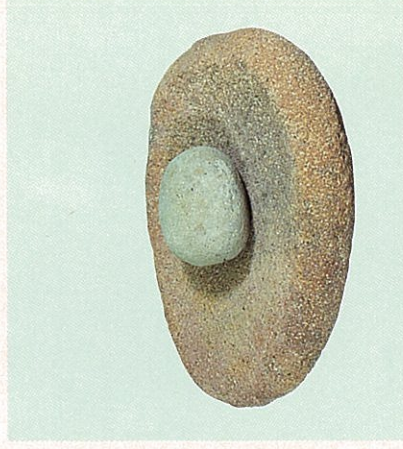


▲ワイングラスやとっくりやおちょこのような形の土器がある。

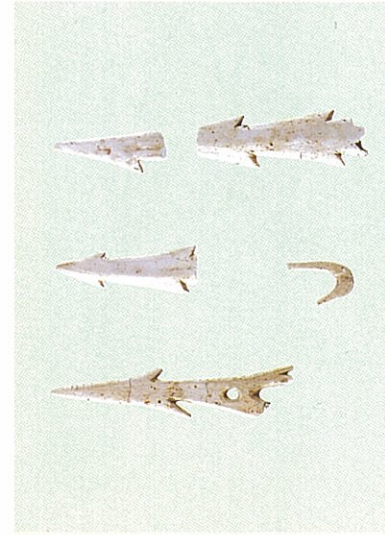


▲赤く焼けている土器は、現在の固形燃料を置く台に似ている。下の段の左の土器の大きさは、口の直径17cm、高さ7cm。

石の道具には、やり、弓矢の先につけるヤジリ、木を伐るオノ、穴をあけるキリ、ナイフ、木の実や植物の根・茎などをすりつぶす石皿と磨石などがあります。道具の使いみちで石材が違ってきます。



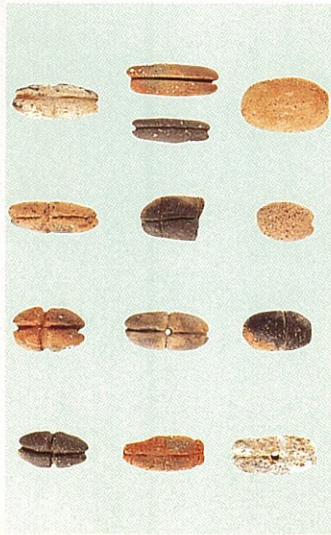
▲すりつぶす道具。



▲鹿の角製のモリと釣針。



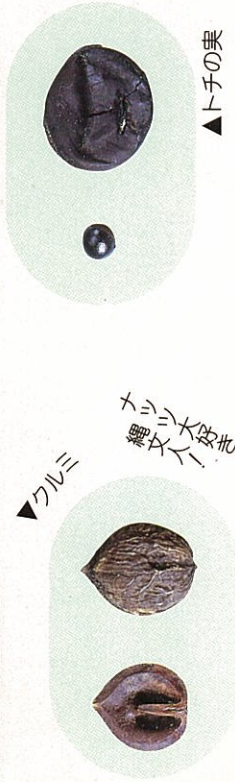
▲軽石製の網のウキ。



▲土製の網のオモリ。 写真提供：仙台市史編さん室



▲川のあとの調査風景。



▼クルミ

トチの実  
縄文人！

▲トチの実



▲恵みの川。多くのサケがのぼった名取川。

魚を刺すモリ、釣針、魚網用のオモリやウキなどの漁の道具が発見され、食料にした魚の骨や歯も見つかっています。魚には、海でとれるタイ・カワハギ・サメ・エイ、スズキ・ボラ、付近の川でとれるサケ・コイ・フナ・アユ・ウナギ・ギバチなどがあります。また、貝もあります。

閑上の行商のおばちゃんのいなかつた時代に、どのようにして海の魚を手に入れたのでしょうか。大野田から名取川河口までは約8km、歩いて片道2時間の距離です。名取川を舟で下れば、もっと早いかもしれません。海の魚も自分達でとったのでしょうか。



発見された川のあとは、幅約100m、深さ3m以上。縄文時代の盛り土を削り通って流れていたため、川の中からは、流された縄文土器がたくさん出土しました。また、クルミ、トチの実、クリなどの食料になる木の実や、落葉広葉樹の葉や枝も見つかっています。

▼川の底から出た漆塗りのクシ。



けもの皮のパンツをはき、ヤリを持って、はだして野山を駆けまわります。一昔前の縄文人のイメージは、そんな原始人・野蠻人だったのではないのでしょうか。青森県三内丸山遺跡などの最近の発掘から得られた情報は、そんな縄文人像を大きく変えます。

大野田遺跡の発掘からも、集団で丘をつくり、共同の「まつりの場」や「墓地」を一定のルールに従って、計画的につくっていたことがわかりました。縄文人は、身のまわりのいろいろなものに神を感じ、土偶をはじめとするさまざまなものに願いをこめて暮らしていたのでしょうか。そこには、狩猟と採集を中心としながら、豊かな自然の恵みと調和して生きていた縄文人の姿を見ることができます。縄文人がもし、現代にタイムスリップしてきたら、今の私達の生活を見て、何と云うでしょう。縄文人の声を聞いてみたいものです。



「なに出できたのや、見せてみる。」

「やさしく、きれいにしつめてね。」  
縄

▲太古の昔からそびえ立つ神の山。太白山。



▲急ぐ発掘！片側の道路はできている。みなさん、ごころうさまでした。



▲町の中に出現した縄文時代。

発掘が終わり、1,500箱以上の遺物と図面と写真が残りました。これから、縄文人のおしゃべりを聞く仕事がまわってきます。